

【全体概要】

茶の需要が低迷し、始良地区など鹿児島県内渥場産地の荒茶単価が低下している中、地域の特徴等を活かした生産技術として「かぶせ茶」生産に取り組んできたが、普通煎茶との価格差は小さくなり、生産量も減少している。そこで、新たな需要に対応するため、かぶせ茶の生産技術を生かした茶種への転換及び販路の拡大により茶業経営の安定と地域銘柄の確立を進める。

新品種・新技術等の概要

○「霧島本かぶせ茶」

霧島山麓である始良地区の茶園で、本地区で定めた栽培・加工法で生産された「かぶせ茶」を示す。

栽培方法：遮光率の高い資材で長期間（17日程度）被覆処理を行う

特 徴：渋みが少なく、旨み強い、水色は鮮緑で香気に特徴がある



被覆処理状況

○てん茶に適した新品種「せいめい」

需要が急増している高品質な抹茶、粉末茶、かぶせ茶、煎茶に適する。

特徴：抹茶・粉末茶用栽培（被覆栽培）における収量、色合い、滋味に優れる

適地：耐寒性に優れ栽培適地が広い

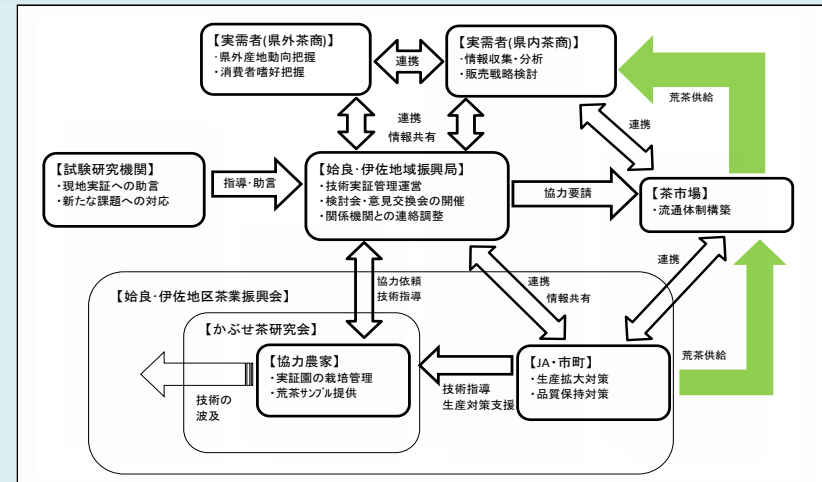


「せいめい」の粉末茶

主な取組内容

- 二番茶の長期被覆茶葉を深蒸し製造した荒茶の試作
 - ・ 深蒸し製造した製品（荒茶）の開発と茶商による評価
- 産地と茶商とのマッチングによる新商品開発
 - ・ 関東以北をターゲットにした深蒸し「霧島本かぶせ茶」の商品化
- 新品種「せいめい」の導入及び現地適応性
 - ・ 霧島地区における生育調査と普及
- 有機てん茶栽培技術の確立
 - ・ 施肥技術（秋肥改善）の試験と品質評価
- 産地及び実需者との生産、販売体制の整備
 - ・ 生産者と実需者との意見交換（有機てん茶の品質と需要動向）
- 生産技術の改善
 - ・ 「有機てん茶」生産マニュアルの作成

コンソーシアム候補の体制図



実績と今後の展開

○ 取組実績

- ・ 新品種「せいめい」の現地適応性を確認
 - 「せいめい」栽培面積の拡大 0.1ha(H29)→1.1ha(H30)
- ・ 「有機茶」の出荷量拡大（県茶市場）
 - H30出荷量 24t（H28比200%）
- ・ 「有機てん茶生産マニュアル」の作成
- ・ 「有機てん茶」工場の新設（2工場）により生産量拡大
 - H30生産量 116t（H28比 290%）

○ 今後の展開

- ・ 有機てん茶の施肥技術の改善
- ・ 有機てん茶の生産拡大及び輸出等の販路拡大